様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	京都ノートルダム女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム女学院

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
国際言語文化学部	英語英文学科	夜・通信	39	0	34	73	13	
	国際日本文化学科	夜・通信	49		38	87	13	
現代人間学部	生活環境学科	夜・通信	47	0	42	89	13	
	心理学科	夜・通信	47		62	109	13	
	こども教育学科	夜・通信	47		124	171	13	
社会情報学環		夜・通信	37	0	62	99	13	
女性キャリアデザイン学環		夜・通信	45	0	42	87	13	
（備考） 令和８年４月から全学部・学環において学生募集を停止していることから、従前の教育課程に基づく数値を記載。								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学 Web サイトの以下のページにて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/nd/instsec/class/

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	京都ノートルダム女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム女学院

１．理事（役員）名簿の公表方法

学校法人 Web サイトの以下のページにて公表している。
https://www.notredame.ac.jp/nd/hojin/
「役員/評議員名簿」

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	現修道士	2025 年 6 月 27 日から 4 年内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	組織体制へのチェック機能
非常勤	現信用金庫顧問	同上	理事長補佐 経営計画策定
非常勤	現私立学校法人 事務局長	2026 年 4 月 1 日から 4 年内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	組織体制へのチェック機能
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	京都ノートルダム女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム女学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。
〔授業計画書の作成・公表に係る取組の概要〕 本学では授業計画書（シラバス）を全学部統一様式で作成し、インターネット等により公表している。スマートフォンでの閲覧にも対応し、学生用ポータルサイトとも連携させ、学生が科目選択時だけでなく授業準備学習等にも活用しやすいように改善を図っている。 シラバスは、例年概ね以下の過程を経て作成・公表している。 11 月下旬　シラバス作成に関する説明会の開催あるいは資料配布、担当教員にシラバス入稿依頼 12 月上旬～1 月中旬　授業担当教員シラバス入稿 12 月中旬　教務委員会におけるシラバスチェック基準の打ち合わせ 1 月下旬～2 月上旬　シラバスチェック（指摘・修正の期間を含む。） 2 月　　シラバス修正・確認作業完了 3 月中旬　インターネット上で公表 各担当教員のシラバス作成に際しては、「シラバスの入稿について」「本学の基本教育理念の組み立てについて」など作成のためのガイドとなる資料を配付するほか、授業改善の一環として説明会を開催し、シラバス作成の考え方や前年度からの変更点・留意点等への理解を深めることとしている。 入稿完了後には、教務委員会の委員（各学科等選出の教員、教育支援部長等の職員）により、当該科目の位置づけがカリキュラム・ポリシーに沿ったものであるか等について「シラバスチェック」を行う。 全学部統一様式によるシラバスには、授業科目に関する情報として①授業コード（コースナンバー）②科目名③ND6（ディプロマ・ポリシーに定める 6 つの力のうち当該科目に最も関連する力を記載。項目 4 参照）④授業以外に必要な標準学修時間⑤担当教員名⑥配当学年⑦開講学期⑧単位⑨備考・前提科目⑩曜日講時を記載した上で、担当教員が記載する事項として、以下の項目を設けている（括弧内は記載にあたって留意を求めている点）。 ・科目の教育目標【必須項目】 （ディプロマ・ポリシーとの関連がわかるよう、学生が到達すべき水準等を具体的に測定可能な行動等で記述） ・教育・学習の個別課題【必須項目】 （科目の教育目標に到達するために授業の中で取り上げる課題などを、授業終了後のイメージが具体的なものとなるように箇条書きで記述） ・ルーブリック【任意項目】 （受講している科目でどのような力がつくかを学生が理解し、主体的に考えて学ぶように方向づけるため、学生が目標に向かって積極的に取り組むことを後押しすることを重視） ・授業計画【必須項目】

（同内容が連続している場合や各回の具体的な内容が不確定である場合も、原則として異なるトピックや観点等を含めて各回の授業内容を記載。オムニバス形式等、複数教員担当の場合は各回の担当者名も記載。準備学習の方法について、可能であれば各回に具体的に記載。）
・授業タイプ【必須項目】
　対面授業であるのか、対面・オンラインのブレンド型授業なのか等を記載
・教育・学習・フィードバックの方法【必須項目】
（授業の実施方法（講義・演習・発表・ディスカッション・グループワーク等）、学習の方法（授業で意識すべきことなど）、授業で使用する教材などについて具体的に示し、試験・レポート等に対するフィードバックについても記載）
・準備学習の具体的な方法【必須項目】
（予習・復習の方法などを具体的に指示）
・準備学習に必要な標準時間数（合計）【必須項目】
（授業以外に必要な予習・復習等に要する時間の合計を標準時間数以内で記載）
・アクティブラーニングの要素
・評価方法・評価基準【必須項目】
（教育目標を基に成績評価の基準を適切に設定し、その内容を具体的に明示）
・担当教員の実務経験
（担当科目の内容に関連した実務経験であることが読み取れるように記載）
・ノート PC の授業での利用
・教員への連絡方法
・留意事項（受講条件等）
・テキスト／参考文献／参考 URL

授業計画書の公表方法	大学 Web サイトの以下のページにて公表している。 https://unipa.notredame.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）
授業科目の成績評価及び単位の授与については、学則（規則・規程等名称の大学名省略。以下同じ。）及び履修規程等の規定に基づき、厳格かつ適正に行っている。
本学では「授業科目の履修は、単位制とし、履修した授業科目に対しては、試験の上、単位を与える」（学則第 14 条）ことを原則とし、試験は「授業時に行う平常試験、レポートその他第 10 条に定める評価方法)」（履修規程第 15 条）により行っている。
具体の成績評価の方法は「筆記・口述試験、論文、レポート、実験、実習、実技及び授業参加度等を基に行」（履修規程第 10 条第 1 項）い、100 点満点で 60 点以上を合格とする（学則第 14 条)。成績評価の基準は下表のとおりである（履修規程第 10 条第 3 項・第 4 項)。

成績評点等	評価	評価（英語表記）
90点以上	秀	A
80点～89点	優	B
70点～79点	良	C
60点～69点	可	D
本学学則第16条、第17条及び第17条の2の規定により、本学以外での学修を認定した授業科目	認	T
59点以下	不可	F
評価なし	／	
本学学則第14条第2項ただし書きの規定により100点を満点とする評価が難しいものとして別に定める授業科目（合格の場合）	合格	P

これらの規定を踏まえ、個々の授業科目においては、シラバスに記載必須として「評価方法・評価基準」の項目を設け、当該授業科目の教育目標を基に適切に設定した基準を具体的に明示することとしている（項目１参照）。記載にあたっては、「総合的に評価する」などの記載は原則として不可とし、「学期末試験（50%）、小テスト・レポート（30%）、授業参加度（20%）」のように明確化している。また、単に出席したことだけをもって評価する「出席点」は認めていない。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

成績評価の客観的な指標として、GPA を以下の方法で算出（小数点以下第 3 位を切捨て）し（履修規程第 11 条）、インターネット等により公開するほか、学生便覧等に記載して、直接ガイダンス等でも説明している。

（4×「秀」の修得単位数＋3×「優」の修得単位数＋2×「良」の修得単位数＋1×「可」の修得単位数）÷（総履修登録単位数）

「認」「合格」の評価並びに卒業のために必要な単位とならない授業科目、学期途中で履修中止を届出た授業科目の評価は GPA の対象としない。再履修した場合は最新の成績だけを対象とする。

なお、成績評価を適切に実施するための取組として、合格者の平均点を原則として「72 点～78 点」の範囲とすること、各授業科目の成績分布状況及び GPA を閲覧可とすることを、全学で申合せている（平成 26 年 8 月 26 日教務委員会「成績評価の厳格化について」）。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	大学 Web サイトの以下のページにて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/about/info/ 「教育情報の公表」 6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること（必修・選択・自由学科別の必修単位修得数及び取得可能学位） 1.（1）学修の成果に係る評価の基準

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をはじめとする「三つの方針」を定めている。4 年間で育てたい力を「DP1.自分を育てる力」「DP2.知識・理解力」「DP3.言語力」「DP4.思考・解決力」「DP5.共生・協働する力」「DP6.創造・発信力」の 6 つの観点「ND6」に整理し、これに沿って、卒業時にどのような力が身についているべきかを定めている。

ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。

令和 7 年度入学生

【全学部分】

DP.1
・キリスト教精神に基づいた「常識」と「良識」を有している。
・自立した女性として人生を切り開くための知識を有している。

DP.2
・人間やその生活、社会、自然などについて幅広い知識を身につけている。
・自身の知識を基に、新しい事柄を理解する力を身につけている。

DP.3
・日本語の正確なコミュニケーションスキル及び運用能力を身につけている。
・母語以外の外国語でのコミュニケーションスキルを有している。

DP.4
・適切な情報処理ができる
・主体的に批判的・論理的な思考を展開できる。
・課題に対し、問題解決に向かう提案ができる。

DP.5
・他者に対し適切な理解と対話をするための力を身につけている
・他者と共生・協働するための素養を身につけている

DP.6
・自らの学修成果をまとめ、発信することができる。

【国際言語文化学部英語英文学科】

DP.1
・キリスト教精神に基づいた共感能力と幅広い教養を備えている。
・自立した女性として国際社会に貢献できる資質を身につけている。

DP.2
・英語圏の文学・文化、言語学、英語教育学についての幅広い知識と、異文化理解能力をもっている。
・英語圏の文学・文化、言語学、英語教育学について考察するために必要な基礎的技能を身につけている。

DP.3
・様々な国籍と文化背景の人々と、英語を介してインタラクション（相互作用）できる言語能力を身につけている。
・上記を実現するために、異文化理解に基づいたコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。

DP.4
・現代社会、特に国際社会のさまざまな課題について多角的に考察できる。
・上記の課題解決に貢献するために不可欠な情報を収集・分析する能力と論理的な思

考力を身につけている。
DP.5
・様々な国籍と文化背景の人々と、英語を介してインタラクション（相互作用）できる言語能力を身につけている。
・上記を実現するために、異文化理解に基づいたコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
DP.6
・現代社会、特に国際社会のさまざまな課題について多角的に考察できる。
・上記の課題解決に貢献するために不可欠な情報を収集・分析する能力と論理的な思考力を身につけている。

【国際言語文化学部国際日本文化学科】
DP.1
・キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を備えている。
・自立した女性として社会に貢献できる資質を身につけている。
DP.2
・「日本語日本文化」「国際文化」の２領域にわたる基礎知識、国際的な視野と教養をもっている。
・「日本語日本文化」および「国際文化」に関する事象について考察するために必要な基礎的技能を身につけている。
DP.3
・多様化、複雑化する現代社会が抱える諸課題に人文学的観点から対応する態度をもっている。
・上記を実現するために必要な日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
DP.4
・現代社会のさまざまな課題について人文学的観点から考察できる。
・上記の課題解決に貢献するために不可欠な情報を収集・分析する能力と論理的な思考力を身につけている。
DP.5
・獲得したコミュニケーション能力を土台に、さまざまな他者と共生・協働する力を身につけている。
DP.6
・自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、その成果をまとめ、発信することができる。

【現代人間学部生活環境学科】
DP.1
・キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を養い、人の生活を生活環境の側面からとらえている。
・よりよい暮らしの創造や地域社会の実現に貢献できる態度を身につけている。
DP.2
・衣食住、家族・生活経営、福祉に関する幅広い知識を身につけている。
・人の生活を生活環境の側面からとらえ、暮らしにかかわる多様な課題を理解できる力を身につけている。
DP.3
・多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題を暮らしの視点から解決へと導くために、人の生活を生活環境の側面からとらえる。
・相手の立場を考えながら、場に応じたコミュニケーションができる力を身につけて

いる。
DP.4
・現代社会のさまざまな課題に対して、人の生活を生活環境の側面からとらえる。
・生活のあり方や生活における課題の本質を探り、より良い方向を見出す力を身につける。
・衣食住、家族・生活経営、福祉に関する専門的な知識と技術を自他の生活課題を解決するために活用できる。
DP.5
・人の生活を生活環境の側面からとらえ、一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊ぶ。
・他者に共感でき、ともに考え、よりよい暮らしに必要なものを協働して創り出す力を身につけている。
DP.6
・人の生活を生活環境の側面からとらえ、地域における生活課題を解決するための情報収集ができる。
・新たな価値の創造に取り組み、その成果を適切に発信する力を身につけている。

【現代人間学部心理学科】
DP.1
・キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を備えている。
・社会の安寧と人々の幸福の実現に貢献できる態度を身につけている。
DP.2
・心理学およびその関連領域についての基礎知識を身につけている。
・心理学の基礎知識を基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。
DP.3
・現代社会の諸問題を解決へと導くために必要な日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと運用能力を身につけている。
・多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題について、心理学的視点から考察し、人々との対話を通して解決することができる。
DP.4
・人間の心と行動に関する情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
・現代社会のさまざまな課題に対して、問題解決に向かう提案ができる。
DP.5
・一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び、社会で不利な立場に置かれた人々を含むさまざまな人々とコミュニケーションを図る力を身につけている。
・他者と共生・協働することができる実践力を身につけている。
DP.6
・専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、得られた分析結果から新たな価値を創造する力を有している。
・心の諸問題に対して適切に判断し対処する力を身につけている。

【現代人間学部こども教育学科】
DP.1
・キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を有している。
・教育者及び保育者として、職業的役割を自覚し、こどもの教育に貢献できる態度を身につけている。
DP.2

・教育や保育、およびその関連領域についての基礎知識を有している。
・身につけた基礎知識を基に新しい教育や保育に関する事柄を理解する力を身につけている。
DP.3
・教育や保育領域のグローバル化、また、日本語を母国語としないこどもや家庭に対応することの重要性を理解している。
・日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
DP.4
・教育や保育に関するさまざまな課題に対して、情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
DP.5
・教育や保育場面で関わる全ての人たちと、よりよいこどもの成長を支えるために、共生・協働する力を身につけている。
DP.6
・教育や保育に関する自らの疑問や課題に基づき研究に取り組み、客観的な分析を通して、教育や保育の諸問題について、適切に判断する力を身につけている。

【社会情報学環】
DP.1
・キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を有している。
・情報を文化・生活環境・心理・教育の側面からとらえ、よりよい社会の構築に向けて考え、行動することができる。
DP.2
・社会情報・情報科学・データサイエンス・AI（人工知能）および4学科の関連領域に関する幅広い知識を身につけている。
・適切な情報を収集し、確かな手続きを踏まえて分析した情報をもとに、暮らしや社会の貢献に関わる多様な課題を理解できる力を身につけている。
DP.3
・現代社会が抱える諸問題を社会情報的視野から、人々との対話に基づいて解決することができる。
・現代社会の諸問題を解決するため、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
DP.4
・現代社会の諸課題を社会情報やデータサイエンスの側面からとらえ、社会における生活のあり方やそのなかでの情報の扱い方の本質を探り、より良い方向を見出す力を身につける。
・社会情報に加え、4 学科に関する専門的な知識と技術も根拠として用い、自他の課題を解決するために活用できる。
DP.5
・社会の現状を社会情報やデータサイエンスの側面からとらえ、一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び、対話を中心に、他者に共感できる力を身に着けている。
・多様な課題を抱える人に寄り添う態度を身につけ、他者と協働しながら関わる支援者として社会・地域・コミュニティの諸問題の解決に貢献できる技術を身につけている。
DP.6
・社会の現状を社会情報やデータサイエンスの側面からとらえ、総合的な学修経験を活かし、課題を解決するために必要に応じて新たな価値の創造に取り組み、その成

果を適切に発信する力を身につける。
・諸問題の解決に向けて主体的に行動できる態度・能力・技術を社会で発揮できる。

【女性キャリアデザイン学環】
DP.1
・キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を備えている。
・自らのライフキャリアおよびビジネスキャリアを自律的に設計し主体的に形成していくために必要な資質・能力を身につけている。
DP.2
・ライフキャリアおよびビジネスキャリア形成に関わる基礎的な知識を身につけている。
DP.3
・ライフキャリアおよびビジネスキャリア形成に必要な日本語による実践的なコミュニケーションスキルを身につけている。
・ライフキャリアおよびビジネスキャリア形成に必要な外国語による基礎的なコミュニケーションスキルを身につけている。
DP.4
・女性が直面する現代的課題についてライフキャリアおよびビジネスキャリア形成の観点から考察できる。
・上記の課題を解決するために必要な実践的な情報収集・分析・活用能力や思考力、判断力、企画力を身につけている。
DP.5
・さまざまな他者と共生・協働しながら自らのライフキャリアおよびビジネスキャリアを形成していこうという態度をもっている。
・基礎的なリーダーシップ／フォロワーシップおよびホスピタリティを身につけている。
・実践的な共生力・協働力を身につけている。
DP.6
・自らの学修経験を省察し、次の学びや実践に生かす力をもっている。
・自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、その成果をまとめ、発信することができる。

卒業の認定にあたっては、ディプロマ・ポリシーに沿った 6 つの力「ND6」が獲得できるよう配置された授業科目の単位修得状況を確認し、卒業要件を満たしていることを卒業判定教授会において厳正に審査する。
特にその集大成としての卒業研究は、学科によって細部は異なるが、スケジュール、提出する論文等の形式、内容、提出方法、評価基準その他について、各学科による「卒業研究の手引き」又は「卒業論文の手引き」で詳細に説明・指導した上で、提出された論文等を複数教員による査読及び口頭試問又は公聴会により評価し、学科の合議により厳格に合否を判定している。
卒業の要件は、4 年以上本学に在学し、次の区分により授業科目を履修して、合計 124 単位以上を修得することとしている（履修規程第 5 条）。

【令和 7 年度入学者】
○ 国際言語文化学部 英語英文学科
　　共通教育科目 24 単位以上
　　専門教育科目 84 単位以上
　　学際教育科目 0～16 単位
○ 国際言語文化学部 国際日本文化学科

共通教育科目 26 単位以上 専門教育科目 72 単位以上 学際教育科目 0～26 単位 ○ 現代人間学部 生活環境学科 共通教育科目 24 単位以上 専門教育科目 76 単位以上 学際教育科目 0～24 単位 ○ 現代人間学部 心理学科 共通教育科目 24 単位以上 専門教育科目 84 単位以上 学際教育科目 0～16 単位 ○ 現代人間学部 こども教育学科 共通教育科目 24 単位以上 専門教育科目 84 単位以上 学際教育科目 0～16 単位 ○ 社会情報学環 共通教育科目 36 単位以上 専門教育科目 68 単位以上 学際教育科目 0～20 単位 ○ 女性キャリアデザイン学環 共通教育科目 26 単位以上 専門教育科目 68 単位以上 学際教育科目 0～30 単位	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	大学 Web サイトの以下のページにて各学科の 3 つのポリシーをまとめて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/about/policy/ 大学 Web サイトの以下のページにて必要単位修得数を公表している。 https://www.notredame.ac.jp/about/info/ 「教育情報の公表」 6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること（必修・選択・自由学科別の必修単位修得数及び取得可能学位） 1. (2) 卒業又は修了の認定に当たっての基準

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	京都ノートルダム女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム女学院

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人 Web サイトの以下のページにて公表している。 https://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/「決算」
収支計算書又は損益計算書	学校法人 Web サイトの以下のページにて公表している。 https://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/「決算」
財産目録	学校法人 Web サイトの以下のページにて公表している。 https://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/「決算」
事業報告書	学校法人 Web サイトの以下のページにて公表している。 https://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/「事業報告」
監事による監査報告（書）	学校法人 Web サイトの以下のページにて公表している。 https://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/「決算」

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：「○○年度事業計画書」 対象年度：2017（平成 29）年度～2026（令和 8）年度）
公表方法：大学 Web サイトの以下のページにて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/about/financial/
中長期計画（名称：「京都ノートルダム女子大学中期目標・中期計画」 対象年度：2025（令和 7）年度～2028（令和 10）年度）
公表方法：大学 Web サイトの以下のページにて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/about/financial/

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：大学 Web サイトの以下のページにて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/about/accreditation/

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：大学 Web サイトの以下のページにて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/about/accreditation/

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　国際言語文化学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 Web サイトの以下のページにて公表している。https://www.notredame.ac.jp/about/info/ 1.大学の教育研究上の目的に関すること）
（概要） 本学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、深く専門の学芸を教授研究するとともに、カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し、教養高き女性を育成して我が国文化の推進に寄与することを目的とする。 国際言語文化学部は、言語・歴史・文学・思想・芸術・倫理・宗教など、人々の生活形成の様式と内容の総体である「文化」という視点から、「人間」存在の意味やその営為のありさまを学際的に学び、文化の多様性を理解し、異文化に対する寛容な国際感覚を身につけ、幅広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：大学 Web サイトの以下のページにて各学科の 3 つのポリシーをまとめて公表している。https://www.notredame.ac.jp/about/policy/ ）
（概要） 本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をはじめとする「三つの方針」を定めている。4 年間で育てたい力を「DP1.自分を育てる力」「DP2.知識・理解力」「DP3.言語力」「DP4.思考・解決力」「DP5.共生・協働する力」「DP6.創造・発信力」の 6 つの観点「ND6」に整理し、これに沿って、卒業時にどのような力が身についているべきかを定めている。 ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。 【国際言語文化学部英語英文学科】 DP.1 ・キリスト教精神に基づいた共感能力と幅広い教養を備えている。 ・自立した女性として国際社会に貢献できる資質を身につけている。 DP.2 ・英語圏の文学・文化、言語学、英語教育学についての幅広い知識と、異文化理解能力をもっている。 ・英語圏の文学・文化、言語学、英語教育学について考察するために必要な基礎的技能を身につけている。 DP.3 ・様々な国籍と文化背景の人々と、英語を介してインタラクション（相互作用）できる言語能力を身につけている。 ・上記を実現するために、異文化理解に基づいたコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。 DP.4 ・現代社会、特に国際社会のさまざまな課題について多角的に考察できる。 ・上記の課題解決に貢献するために不可欠な情報を収集・分析する能力と論理的な思考力を身につけている。 DP.5 ・様々な国籍と文化背景の人々と、英語を介してインタラクション（相互作用）できる言語能力を身につけている。 ・上記を実現するために、異文化理解に基づいたコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。

DP.6
・現代社会、特に国際社会のさまざまな課題について多角的に考察できる。
・上記の課題解決に貢献するために不可欠な情報を収集・分析する能力と論理的な思考力を身につけている。

【国際言語文化学部国際日本文化学科】
DP.1
・キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を備えている。
・自立した女性として社会に貢献できる資質を身につけている。
DP.2
・「日本語日本文化」「国際文化」の２領域にわたる基礎知識、国際的な視野と教養をもっている。
・「日本語日本文化」および「国際文化」に関する事象について考察するために必要な基礎的技能を身につけている。
DP.3
・多様化、複雑化する現代社会が抱える諸課題に人文学的観点から対応する態度をもっている。
・上記を実現するために必要な日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
DP.4
・現代社会のさまざまな課題について人文学的観点から考察できる。
・上記の課題解決に貢献するために不可欠な情報を収集・分析する能力と論理的な思考力を身につけている。
DP.5
・獲得したコミュニケーション能力を土台に、さまざまな他者と共生・協働する力を身につけている。
DP.6
・自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、その成果をまとめ、発信することができる。

卒業の認定にあたっては、ディプロマ・ポリシーに沿った６つの力「ND6」が獲得できるよう配置された授業科目の単位修得状況を確認し、卒業要件を満たしていることを卒業判定教授会において厳正に審査する。
特にその集大成としての卒業研究は、学科によって細部は異なるが、スケジュール、提出する論文等の形式、内容、提出方法、評価基準その他について、各学科による「卒業研究の手引き」又は「卒業論文の手引き」で詳細に説明・指導した上で、提出された論文等を複数教員による査読及び口頭試問又は公聴会により評価し、学科の合議により厳格に合否を判定している。
卒業の要件は、4年以上本学に在学し、次の区分により授業科目を履修して、合計124単位以上を修得することとしている（履修規程第５条）。

【令和７年度入学者】
○ 国際言語文化学部 英語英文学科
　　共通教育科目 24単位以上
　　専門教育科目 84単位以上
　　学際教育科目 0～16単位
○ 国際言語文化学部 国際日本文化学科
　　共通教育科目 26単位以上
　　専門教育科目 72単位以上
　　学際教育科目 0～26単位

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 Web サイトの以下のページにて各学科の 3 つのポリシーをまとめて公表している。https://www.notredame.ac.jp/about/policy/ ）
（概要） 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は、三つの方針のうちディプロマ・ポリシーで設定している 6 つの力「ND6」を身につけるために必要な授業科目について、どのような内容の科目を、どの時期に配置して編成するかを具体的に記述している。
入学者の受入れに関する方針
（概要） 令和 8 年度以降学生募集停止のため、入学者の受入れはなし。

学部等名　現代人間学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 Web サイトの以下のページにて公表している。https://www.notredame.ac.jp/about/info/ 1.大学の教育研究上の目的に関すること）
（概要） 本学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、深く専門の学芸を教授研究するとともに、カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し、教養高き女性を育成して我が国文化の推進に寄与することを目的とする。 現代人間学部は、人間やその生活、社会、自然に対する総合的な理解に基づく実践的な能力を身につけた人材を養成するため、学際的な学びを深め、専門知識の向上に相乗効果を発揮させた総合的な教育研究を行うことを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 Web サイトの以下のページにて各学科の 3 つのポリシーをまとめて公表している。https://www.notredame.ac.jp/about/policy/ ）
（概要） 本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をはじめとする「三つの方針」を定めている。4 年間で育てたい力を「DP1.自分を育てる力」「DP2.知識・理解力」「DP3.言語力」「DP4.思考・解決力」「DP5.共生・協働する力」「DP6.創造・発信力」の 6 つの観点「ND6」に整理し、これに沿って、卒業時にどのような力が身についているべきかを定めている。 ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。 【現代人間学部生活環境学科】 DP.1 ・キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を養い、人の生活を生活環境の側面からとらえている。 ・よりよい暮らしの創造や地域社会の実現に貢献できる態度を身につけている。 DP.2 ・衣食住、家族・生活経営、福祉に関する幅広い知識を身につけている。 ・人の生活を生活環境の側面からとらえ、暮らしにかかわる多様な課題を理解できる力を身につけている。 DP.3 ・多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題を暮らしの視点から解決へと導くために、人の生活を生活環境の側面からとらえる。 ・相手の立場を考えながら、場に応じたコミュニケーションができる力を身につけている。 DP.4

・現代社会のさまざまな課題に対して、人の生活を生活環境の側面からとらえる。
・生活のあり方や生活における課題の本質を探り、より良い方向を見出す力を身につける。
・衣食住、家族・生活経営、福祉に関する専門的な知識と技術を自他の生活課題を解決するために活用できる。
DP.5
・人の生活を生活環境の側面からとらえ、一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊ぶ。
・他者に共感でき、ともに考え、よりよい暮らしに必要なものを協働して創り出す力を身につけている。
DP.6
・人の生活を生活環境の側面からとらえ、地域における生活課題を解決するための情報収集ができる。
・新たな価値の創造に取り組み、その成果を適切に発信する力を身につけている。

【現代人間学部心理学科】
DP.1
・キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を備えている。
・社会の安寧と人々の幸福の実現に貢献できる態度を身につけている。
DP.2
・心理学およびその関連領域についての基礎知識を身につけている。
・心理学の基礎知識を基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。
DP.3
・現代社会の諸問題を解決へと導くために必要な日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと運用能力を身につけている。
・多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題について、心理学的視点から考察し、人々との対話を通して解決することができる。
DP.4
・人間の心と行動に関する情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
・現代社会のさまざまな課題に対して、問題解決に向かう提案ができる。
DP.5
・一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び、社会で不利な立場に置かれた人々を含むさまざまな人々とコミュニケーションを図る力を身につけている。
・他者と共生・協働することができる実践力を身につけている。
DP.6
・専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、得られた分析結果から新たな価値を創造する力を有している。
・心の諸問題に対して適切に判断し対処する力を身につけている。

【現代人間学部こども教育学科】
DP.1
・キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を有している。
・教育者及び保育者として、職業的役割を自覚し、こどもの教育に貢献できる態度を身につけている。
DP.2
・教育や保育、およびその関連領域についての基礎知識を有している。
・身につけた基礎知識を基に新しい教育や保育に関する事柄を理解する力を身につけている。
DP.3
・教育や保育領域のグローバル化、また、日本語を母国語としないこどもや家庭に対応することの重要性を理解している。

・日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
DP.4
・教育や保育に関するさまざまな課題に対して、情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
DP.5
・教育や保育場面で関わる全ての人たちと、よりよいこどもの成長を支えるために、共生・協働する力を身につけている。
DP.6
・教育や保育に関する自らの疑問や課題に基づき研究に取り組み、客観的な分析を通して、教育や保育の諸問題について、適切に判断する力を身につけている。

卒業の認定にあたっては、ディプロマ・ポリシーに沿った6つの力「ND6」が獲得できるよう配置された授業科目の単位修得状況を確認し、卒業要件を満たしていることを卒業判定教授会において厳正に審査する。

特にその集大成としての卒業研究は、学科によって細部は異なるが、スケジュール、提出する論文等の形式、内容、提出方法、評価基準その他について、各学科による「卒業研究の手引き」又は「卒業論文の手引き」で詳細に説明・指導した上で、提出された論文等を複数教員による査読及び口頭試問又は公聴会により評価し、学科の合議により厳格に合否を判定している。

卒業の要件は、4年以上本学に在学し、次の区分により授業科目を履修して、合計124単位以上を修得することとしている（履修規程第5条）。

【令和7年度入学者】
○ 現代人間学部 生活環境学科
　共通教育科目 24単位以上
　専門教育科目 76単位以上
　学際教育科目 0～24単位
○ 現代人間学部 心理学科
　共通教育科目 24単位以上
　専門教育科目 84単位以上
　学際教育科目 0～16単位
○ 現代人間学部 こども教育学科
　共通教育科目 24単位以上
　専門教育科目 84単位以上
　学際教育科目 0～16単位

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学Webサイトの以下のページにて各学科の3つのポリシーをまとめて公表している。https://www.notredame.ac.jp/about/policy/ ）

（概要）
教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は、三つの方針のうちディプロマ・ポリシーで設定している6つの力「ND6」を身につけるために必要な授業科目について、どのような内容の科目を、どの時期に配置して編成するかを具体的に記述している。

入学者の受入れに関する方針

（概要）
令和8年度以降学生募集停止のため、入学者の受入れはなし。

学部等名　社会情報学環

教育研究上の目的（公表方法：大学 Web サイトの以下のページにて公表している。https://www.notredame.ac.jp/about/info/ 1.大学の教育研究上の目的に関すること）

（概要）

本学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、深く専門の学芸を教授研究するとともに、カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し、教養高き女性を育成して我が国文化の推進に寄与することを目的とする。

社会情報学環は、社会における情報の意味とその働きを理解し、情報を科学的に取り扱うための基礎的な知識・技能と態度を身につけるとともに、自ら問いを立て、主体的に解決をめざせる能力を身につけることを目的とし、社会学、心理学、教育学など関連する人文・社会諸科学による学際的な教育研究を行う。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 Web サイトの以下のページにて各学科の 3 つのポリシーをまとめて公表している。https://www.notredame.ac.jp/about/policy/ ）

（概要）

本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をはじめとする「三つの方針」を定めている。4 年間で育てたい力を「DP1.自分を育てる力」「DP2.知識・理解力」「DP3.言語力」「DP4.思考・解決力」「DP5.共生・協働する力」「DP6.創造・発信力」の 6 つの観点「ND6」に整理し、これに沿って、卒業時にどのような力が身についているべきかを定めている。

ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。

【社会情報学環】

DP.1

・キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を有している。

・情報を文化・生活環境・心理・教育の側面からとらえ、よりよい社会の構築に向けて考え、行動することができる。

DP.2

・社会情報・情報科学・データサイエンス・AI（人工知能）および 4 学科の関連領域に関する幅広い知識を身につけている。

・適切な情報を収集し、確かな手続きを踏まえて分析した情報をもとに、暮らしや社会の貢献に関わる多様な課題を理解できる力を身につけている。

DP.3

・現代社会が抱える諸問題を社会情報的視野から、人々との対話に基づいて解決することができる。

・現代社会の諸問題を解決するため、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。

DP.4

・現代社会の諸課題を社会情報やデータサイエンスの側面からとらえ、社会における生活のあり方やそのなかでの情報の扱い方の本質を探り、より良い方向を見出す力を身につける。

・社会情報に加え、4 学科に関する専門的な知識と技術も根拠として用い、自他の課題を解決するために活用できる。

DP.5

・社会の現状を社会情報やデータサイエンスの側面からとらえ、一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び、対話を中心に、他者に共感できる力を身に着けている。

・多様な課題を抱える人に寄り添う態度を身につけ、他者と協働しながら関わる支援

者として社会・地域・コミュニティの諸問題の解決に貢献できる技術を身につけている。

DP.6

・社会の現状を社会情報やデータサイエンスの側面からとらえ、総合的な学修経験を活かし、課題を解決するために必要に応じて新たな価値の創造に取り組み、その成果を適切に発信する力を身につける。
・諸問題の解決に向けて主体的に行動できる態度・能力・技術を社会で発揮できる。

卒業の認定にあたっては、ディプロマ・ポリシーに沿った6つの力「ND6」が獲得できるよう配置された授業科目の単位修得状況を確認し、卒業要件を満たしていることを卒業判定教授会において厳正に審査する。

特にその集大成としての卒業研究は、学科によって細部は異なるが、スケジュール、提出する論文等の形式、内容、提出方法、評価基準その他について、各学科による「卒業研究の手引き」又は「卒業論文の手引き」で詳細に説明・指導した上で、提出された論文等を複数教員による査読及び口頭試問又は公聴会により評価し、学科の合議により厳格に合否を判定している。

卒業の要件は、4年以上本学に在学し、次の区分により授業科目を履修して、合計124単位以上を修得することとしている（履修規程第5条）。

【令和7年度入学者】

○ 社会情報学環

共通教育科目 36単位以上
専門教育科目 68単位以上
学際教育科目 0～20単位

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学Webサイトの以下のページにて各学科の3つのポリシーをまとめて公表している。https://www.notredame.ac.jp/about/policy/ ）

（概要）

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は、三つの方針のうちディプロマ・ポリシーで設定している6つの力「ND6」を身につけるために必要な授業科目について、どのような内容の科目を、どの時期に配置して編成するかを具体的に記述している。

入学者の受入れに関する方針

（概要）

令和8年度以降学生募集停止のため、入学者の受入れはなし。

学部等名　女性キャリアデザイン学環

教育研究上の目的（公表方法：大学Webサイトの以下のページにて公表している。https://www.notredame.ac.jp/about/info/ 1.大学の教育研究上の目的に関すること）

（概要）

本学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、深く専門の学芸を教授研究するとともに、カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し、教養高き女性を育成して我が国文化の推進に寄与することを目的とする。

女性キャリアデザイン学環は、多様な文化を理解し、異文化に対する態度、プレゼンテーション力やＩＣＴ活用力を養うと同時に、海外留学等による実践的な学びと、生涯を通して人が成長し、社会性を獲得し、周囲を巻き込んで課題解決する力を身につける一連の営みに関する理論的な学びとを往還しながらライフキャリア形成のあり方を考究し、文学、

社会学、心理学、教育学など関連する人文諸科学による学際的・総合的な教育研究を行う。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 Web サイトの以下のページにて各学科の 3 つのポリシーをまとめて公表している。https://www.notredame.ac.jp/about/policy/ ）

（概要）
本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をはじめとする「三つの方針」を定めている。4 年間で育てたい力を「DP1.自分を育てる力」「DP2.知識・理解力」「DP3.言語力」「DP4.思考・解決力」「DP5.共生・協働する力」「DP6.創造・発信力」の 6 つの観点「ND6」に整理し、これに沿って、卒業時にどのような力が身についているべきかを定めている。
ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。

【女性キャリアデザイン学環】
DP.1
・キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を備えている。
・自らのライフキャリアおよびビジネスキャリアを自律的に設計し主体的に形成していくために必要な資質・能力を身につけている。
DP.2
・ライフキャリアおよびビジネスキャリア形成に関わる基礎的な知識を身につけている。
DP.3
・ライフキャリアおよびビジネスキャリア形成に必要な日本語による実践的なコミュニケーションスキルを身につけている。
・ライフキャリアおよびビジネスキャリア形成に必要な外国語による基礎的なコミュニケーションスキルを身につけている。
DP.4
・女性が直面する現代的課題についてライフキャリアおよびビジネスキャリア形成の観点から考察できる。
・上記の課題を解決するために必要な実践的な情報収集・分析・活用能力や思考力、判断力、企画力を身につけている。
DP.5
・さまざまな他者と共生・協働しながら自らのライフキャリアおよびビジネスキャリアを形成していこうという態度をもっている。
・基礎的なリーダーシップ／フォロワーシップおよびホスピタリティを身につけている。
・実践的な共生力・協働力を身につけている。
DP.6
・自らの学修経験を省察し、次の学びや実践に生かす力をもっている。
・自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、その成果をまとめ、発信することができる。

卒業の認定にあたっては、ディプロマ・ポリシーに沿った 6 つの力「ND6」が獲得できるよう配置された授業科目の単位修得状況を確認し、卒業要件を満たしていることを卒業判定教授会において厳正に審査する。
特にその集大成としての卒業研究は、学科によって細部は異なるが、スケジュール、提出する論文等の形式、内容、提出方法、評価基準その他について、各学科による「卒業研究の手引き」又は「卒業論文の手引き」で詳細に説明・指導した上で、提出された論文等を複数教員による査読及び口頭試問又は公聴会により評価し、学科の合議により厳格に合

否を判定している。
　卒業の要件は、4年以上本学に在学し、次の区分により授業科目を履修して、合計124単位以上を修得することとしている（履修規程第5条）。

【令和7年度入学者】
○ 女性キャリアデザイン学環
　　共通教育科目 26単位以上
　　専門教育科目 68単位以上
　　学際教育科目 0～30単位

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学Webサイトの以下のページにて各学科の3つのポリシーをまとめて公表している。https://www.notredame.ac.jp/about/policy/ ）

（概要）
　教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は、三つの方針のうちディプロマ・ポリシーで設定している6つの力「ND6」を身につけるために必要な授業科目について、どのような内容の科目を、どの時期に配置して編成するかを具体的に記述している。

入学者の受入れに関する方針

（概要）
　令和8年度以降学生募集停止のため、入学者の受入れはなし。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学Webサイトの以下のページにて公表している。
https://www.notredame.ac.jp/about/info/
「教育情報の公表」2.教育研究上の基本組織に関すること

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1人	－					1人
国際言語文化学部	－	7人	2人	2人	0人	0人	11人
現代人間学部	－	17人	10人	5人	0人	0人	32人
学部等連係課程 社会情報学環	－	3人	1人	0人	0人	0人	4人
学部等連係課程 女性ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学環	－	2人	0人	0人	0人	0人	2人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	100人	100人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：「教員データベース」にて公表している。 （URL）https://notredame-db.net/

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

本学はFDを教育センターが所管しており、2025年度に実施した内容は以下のとおりである。
1.学部生を対象とした授業アンケート
2.大学院生を対象とした教育評価アンケート
3.FD研修会
4.オープンクラス（年1回）

本学のFD活動については、以下のWebページにて公表している。
https://www.notredame.ac.jp/nd/ndec/fd/

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
国際言語文化学部	－人	－人	－%	280人	126人	45.0%	－人	－人
現代人間学部	－人	－人	－%	650人	384人	59.1%	－人	－人
学部等連係課程 社会情報学環	－人	－人	－%	70人	39人	55.7%	－人	－人
学部等連係課程 女性ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学環	－人	－人	－%	30人	16人	53.3%	－人	－人
合計	－人	－人	－%	1,030人	565人	54.9%	－人	－人

（備考）
令和8年4月募集停止。

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
国際言語文化学部	51 人（100%）	1 人（2.0%）	38 人（74.5%）	12 人（23.5%）
現代人間学部	144 人（100%）	12 人（8.3%）	113 人（78.5%）	19 人（13.2%）
合計	195 人（100%）	13 人（6.7%）	151 人（77.4%）	31 人（15.9%）

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）
京都ノートルダム女子大学大学院，京都教育大学大学院連合教職実践研究科，明治安田生命保険相互会社，(株)ＪＲ東海リテイリング・プラス，日本食研(株)，京都信用金庫，洛和会ヘルスケアシステム，(株)進研アド，京都府教育委員会，京都市教育委員会

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
国際言語文化学部	56 人（100%）	41 人（73.2%）	1 人（1.8%）	10 人（17.9%）	4 人（7.1%）
現代人間学部	156 人（100%）	127 人（81.4%）	12 人（7.7%）	12 人（7.7%）	5 人（3.2%）
合計	212 人（100%）	168 人（79.2%）	13 人（6.1%）	22 人（10.4%）	9 人（4.2%）

（備考）
・「その他」は在学期間未了者数。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）【該当部分再掲】
本学では授業計画書（シラバス）を全学部統一様式で作成し、インターネット等により公表している。スマートフォンでの閲覧にも対応し、学生用ポータルサイトとも連携させ、学生が科目選択時だけでなく授業準備学習等にも活用しやすいように改善を図っている。
シラバスは、例年概ね以下の過程を経て作成・公表している。

11 月下旬　シラバス作成に関する説明会の開催あるいは資料配布、担当教員にシラバス入稿依頼
12 月上旬～1 月中旬　授業担当教員シラバス入稿
12 月中旬　教務委員会におけるシラバスチェック基準の打ち合わせ
1 月下旬～2 月上旬　シラバスチェック（指摘・修正の期間を含む。）
2 月　シラバス修正・確認作業完了
3 月中旬　インターネット上で公表

各担当教員のシラバス作成に際しては、「シラバスの入稿について」「本学の基本教育理念の組み立てについて」など作成のためのガイドとなる資料を配付するほか、授業改善の一環として説明会を開催し、シラバス作成の考え方や前年度からの変更点・留意点等への理解を深めることとしている。
入稿完了後には、教務委員会の委員（各学科等選出の教員、教育支援部長等の職員）

により、当該科目の位置づけがカリキュラム・ポリシーに沿ったものであるか等について「シラバスチェック」を行う。
　全学部統一様式によるシラバスには、授業科目に関する情報として①授業コード（コースナンバー）②科目名③ND6（ディプロマ・ポリシーに定める 6 つの力のうち当該科目に最も関連する力を記載。項目 4 参照）④授業以外に必要な標準学修時間⑤担当教員名⑥配当学年⑦開講学期⑧単位⑨備考・前提科目⑩曜日講時を記載した上で、担当教員が記載する事項として、以下の項目を設けている（括弧内は記載にあたって留意を求めている点）。

・科目の教育目標【必須項目】
　（ディプロマ・ポリシーとの関連がわかるよう、学生が到達すべき水準等を具体的に測定可能な行動等で記述）
・教育・学習の個別課題【必須項目】
　（科目の教育目標に到達するために授業の中で取り上げる課題などを、授業終了後のイメージが具体的なものとなるように箇条書きで記述）
・ルーブリック【任意項目】
　（受講している科目でどのような力がつくかを学生が理解し、主体的に考えて学ぶように方向づけるため、学生が目標に向かって積極的に取り組むことを後押しすることを重視）
・授業計画【必須項目】
　（同内容が連続している場合や各回の具体的な内容が不確定である場合も、原則として異なるトピックや観点等を含めて各回の授業内容を記載。オムニバス形式等、複数教員担当の場合は各回の担当者名も記載。準備学習の方法について、可能であれば各回に具体的に記載。）
・授業タイプ【必須項目】
　　対面授業であるのか、対面・オンラインのブレンド型授業なのか等を記載
・教育・学習・フィードバックの方法【必須項目】
　（授業の実施方法（講義・演習・発表・ディスカッション・グループワーク等）、学習の方法（授業で意識すべきことなど）、授業で使用する教材などについて具体的に示し、試験・レポート等に対するフィードバックについても記載）
・準備学習の具体的な方法【必須項目】
　（予習・復習の方法などを具体的に指示）
・準備学習に必要な標準時間数（合計）【必須項目】
　（授業以外に必要な予習・復習等に要する時間の合計を標準時間数以内で記載）
・アクティブラーニングの要素
・評価方法・評価基準【必須項目】
　（教育目標を基に成績評価の基準を適切に設定し、その内容を具体的に明示）
・担当教員の実務経験
　（担当科目の内容に関連した実務経験であることが読み取れるように記載）
・ノート PC の授業での利用
・教員への連絡方法
・留意事項（受講条件等）
・テキスト／参考文献／参考 URL

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）【該当部分再掲】
　授業科目の成績評価及び単位の授与については、学則（規則・規程等名称の大学名省略。以下同じ。）及び履修規程等の規定に基づき、厳格かつ適正に行っている。
　本学では「授業科目の履修は、単位制とし、履修した授業科目に対しては、試験の上、単位を与える」（学則第 14 条）ことを原則とし、試験は「授業時に行う平常試験、レポートその他第 10 条に定める評価方法）」（履修規程第 15 条）により行っている。
　具体の成績評価の方法は「筆記・口述試験、論文、レポート、実験、実習、実技及び授業参加度等を基に行」（履修規程第 10 条第 1 項）い、100 点満点で 60 点以上を合格とする（学則第 14 条）。成績評価の基準は下表のとおりである（履修規程第 10 条第 3

項・第４項）。

成績評点等	評価	評価（英語表記）
90点以上	秀	A
80点～89点	優	B
70点～79点	良	C
60点～69点	可	D
本学学則第16条、第17条及び第17条の2の規定により、本学以外での学修を認定した授業科目	認	T
59点以下	不可	F
評価なし	／	
本学学則第14条第2項ただし書きの規定により100点を満点とする評価が難しいものとして別に定める授業科目（合格の場合）	合格	P

これらの規定を踏まえ、個々の授業科目においては、シラバスに記載必須として「評価方法・評価基準」の項目を設け、当該授業科目の教育目標を基に適切に設定した基準を具体的に明示することとしている（項目１参照）。記載にあたっては、「総合的に評価する」などの記載は原則として不可とし、「学期末試験（50%）、小テスト・レポート（30%）、授業参加度（20%）」のように明確化している。また、単に出席したことだけをもって評価する「出席点」は認めていない。

本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をはじめとする「三つの方針」を定めている。４年間で育てたい力を「DP1.自分を育てる力」「DP2.知識・理解力」「DP3.言語力」「DP4.思考・解決力」「DP5.共生・協働する力」「DP6.創造・発信力」の６つの観点「ND6」に整理し、これに沿って、卒業時にどのような力が身についているべきかを定めている。

ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。

令和７年度入学生

【全学部分】

DP.1

・キリスト教精神に基づいた「常識」と「良識」を有している。

・自立した女性として人生を切り開くための知識を有している。

DP.2

・人間やその生活、社会、自然などについて幅広い知識を身につけている。

・自身の知識を基に、新しい事柄を理解する力を身につけている。

DP.3

・日本語の正確なコミュニケーションスキル及び運用能力を身につけている。

・母語以外の外国語でのコミュニケーションスキルを有している。

DP.4

・適切な情報処理ができる

・主体的に批判的・論理的な思考を展開できる。

・課題に対し、問題解決に向かう提案ができる。

DP.5

・他者に対し適切な理解と対話をするための力を身につけている

・他者と共生・協働するための素養を身につけている

DP.6

・自らの学修成果をまとめ、発信することができる。

【国際言語文化学部英語英文学科】
DP.1
・キリスト教精神に基づいた共感能力と幅広い教養を備えている。
・自立した女性として国際社会に貢献できる資質を身につけている。
DP.2
・英語圏の文学・文化、言語学、英語教育学についての幅広い知識と、異文化理解能力をもっている。
・英語圏の文学・文化、言語学、英語教育学について考察するために必要な基礎的技能を身につけている。
DP.3
・様々な国籍と文化背景の人々と、英語を介してインタラクション（相互作用）できる言語能力を身につけている。
・上記を実現するために、異文化理解に基づいたコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
DP.4
・現代社会、特に国際社会のさまざまな課題について多角的に考察できる。
・上記の課題解決に貢献するために不可欠な情報を収集・分析する能力と論理的な思考力を身につけている。
DP.5
・様々な国籍と文化背景の人々と、英語を介してインタラクション（相互作用）できる言語能力を身につけている。
・上記を実現するために、異文化理解に基づいたコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
DP.6
・現代社会、特に国際社会のさまざまな課題について多角的に考察できる。
・上記の課題解決に貢献するために不可欠な情報を収集・分析する能力と論理的な思考力を身につけている。

【国際言語文化学部国際日本文化学科】
DP.1
・キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を備えている。
・自立した女性として社会に貢献できる資質を身につけている。
DP.2
・「日本語日本文化」「国際文化」の２領域にわたる基礎知識、国際的な視野と教養をもっている。
・「日本語日本文化」および「国際文化」に関する事象について考察するために必要な基礎的技能を身につけている。
DP.3
・多様化、複雑化する現代社会が抱える諸課題に人文学的観点から対応する態度をもっている。
・上記を実現するために必要な日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
DP.4
・現代社会のさまざまな課題について人文学的観点から考察できる。
・上記の課題解決に貢献するために不可欠な情報を収集・分析する能力と論理的な思考力を身につけている。
DP.5
・獲得したコミュニケーション能力を土台に、さまざまな他者と共生・協働する力を身につけている。

DP.6
・自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、その成果をまとめ、発信することができる。

【現代人間学部生活環境学科】
DP.1
・キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を養い、人の生活を生活環境の側面からとらえている。
・よりよい暮らしの創造や地域社会の実現に貢献できる態度を身につけている。
DP.2
・衣食住、家族・生活経営、福祉に関する幅広い知識を身につけている。
・人の生活を生活環境の側面からとらえ、暮らしにかかわる多様な課題を理解できる力を身につけている。
DP.3
・多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題を暮らしの視点から解決へと導くために、人の生活を生活環境の側面からとらえる。
・相手の立場を考えながら、場に応じたコミュニケーションができる力を身につけている。
DP.4
・現代社会のさまざまな課題に対して、人の生活を生活環境の側面からとらえる。
・生活のあり方や生活における課題の本質を探り、より良い方向を見出す力を身につける。
・衣食住、家族・生活経営、福祉に関する専門的な知識と技術を自他の生活課題を解決するために活用できる。
DP.5
・人の生活を生活環境の側面からとらえ、一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊ぶ。
・他者に共感でき、ともに考え、よりよい暮らしに必要なものを協働して創り出す力を身につけている。
DP.6
・人の生活を生活環境の側面からとらえ、地域における生活課題を解決するための情報収集ができる。
・新たな価値の創造に取り組み、その成果を適切に発信する力を身につけている。

【現代人間学部心理学科】
DP.1
・キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を備えている。
・社会の安寧と人々の幸福の実現に貢献できる態度を身につけている。
DP.2
・心理学およびその関連領域についての基礎知識を身につけている。
・心理学の基礎知識を基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。
DP.3
・現代社会の諸問題を解決へと導くために必要な日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと運用能力を身につけている。
・多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題について、心理学的視点から考察し、人々との対話を通して解決することができる。
DP.4
・人間の心と行動に関する情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
・現代社会のさまざまな課題に対して、問題解決に向かう提案ができる。

DP.5
・一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び、社会で不利な立場に置かれた人々を含むさまざまな人々とコミュニケーションを図る力を身につけている。
・他者と共生・協働することができる実践力を身につけている。
DP.6
・専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、得られた分析結果から新たな価値を創造する力を有している。
・心の諸問題に対して適切に判断し対処する力を身につけている。

【現代人間学部こども教育学科】
DP.1
・キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を有している。
・教育者及び保育者として、職業的役割を自覚し、こどもの教育に貢献できる態度を身につけている。
DP.2
・教育や保育、およびその関連領域についての基礎知識を有している。
・身につけた基礎知識を基に新しい教育や保育に関する事柄を理解する力を身につけている。
DP.3
・教育や保育領域のグローバル化、また、日本語を母国語としないこどもや家庭に対応することの重要性を理解している。
・日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
DP.4
・教育や保育に関するさまざまな課題に対して、情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
DP.5
・教育や保育場面で関わる全ての人たちと、よりよいこどもの成長を支えるために、共生・協働する力を身につけている。
DP.6
・教育や保育に関する自らの疑問や課題に基づき研究に取り組み、客観的な分析を通して、教育や保育の諸問題について、適切に判断する力を身につけている。

【社会情報学環】
DP.1
・キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を有している。
・情報を文化・生活環境・心理・教育の側面からとらえ、よりよい社会の構築に向けて考え、行動することができる。
DP.2
・社会情報・情報科学・データサイエンス・AI（人工知能）および4学科の関連領域に関する幅広い知識を身につけている。
・適切な情報を収集し、確かな手続きを踏まえて分析した情報をもとに、暮らしや社会の貢献に関わる多様な課題を理解できる力を身につけている。
DP.3
・現代社会が抱える諸問題を社会情報的視野から、人々との対話に基づいて解決することができる。
・現代社会の諸問題を解決するため、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
DP.4
・現代社会の諸課題を社会情報やデータサイエンスの側面からとらえ、社会における生活

のあり方やそのなかでの情報の扱い方の本質を探り、より良い方向を見出す力を身につける。
・社会情報に加え、4学科に関する専門的な知識と技術も根拠として用い、自他の課題を解決するために活用できる。
DP.5
・社会の現状を社会情報やデータサイエンスの側面からとらえ、一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び、対話を中心に、他者に共感できる力を身に着けている。
・多様な課題を抱える人に寄り添う態度を身につけ、他者と協働しながら関わる支援者として社会・地域・コミュニティの諸問題の解決に貢献できる技術を身につけている。
DP.6
・社会の現状を社会情報やデータサイエンスの側面からとらえ、総合的な学修経験を活かし、課題を解決するために必要に応じて新たな価値の創造に取り組み、その成果を適切に発信する力を身につける。
・諸問題の解決に向けて主体的に行動できる態度・能力・技術を社会で発揮できる。

【女性キャリアデザイン学環】
DP.1
・キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を備えている。
・自らのライフキャリアおよびビジネスキャリアを自律的に設計し主体的に形成していくために必要な資質・能力を身につけている
DP.2
・ライフキャリアおよびビジネスキャリア形成に関わる基礎的な知識を身につけている。
DP.3
・ライフキャリアおよびビジネスキャリア形成に必要な日本語による実践的なコミュニケーションスキルを身につけている。
・ライフキャリアおよびビジネスキャリア形成に必要な外国語による基礎的なコミュニケーションスキルを身につけている。
DP.4
・女性が直面する現代的課題についてライフキャリアおよびビジネスキャリア形成の観点から考察できる。
・上記の課題を解決するために必要な実践的な情報収集・分析・活用能力や思考力、判断力、企画力を身につけている。
DP.5
・さまざまな他者と共生・協働しながら自らのライフキャリアおよびビジネスキャリアを形成していこうという態度をもっている。
・基礎的なリーダーシップ／フォロワーシップおよびホスピタリティを身につけている。
・実践的な共生力・協働力を身につけている。
DP.6
・自らの学修経験を省察し、次の学びや実践に生かす力をもっている。
・自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、その成果をまとめ、発信することができる。

卒業の認定にあたっては、ディプロマ・ポリシーに沿った6つの力「ND6」が獲得できるよう配置された授業科目の単位修得状況を確認し、卒業要件を満たしていることを卒業判定教授会において厳正に審査する。
特にその集大成としての卒業研究は、学科によって細部は異なるが、スケジュール、提出する論文等の形式、内容、提出方法、評価基準その他について、各学科による「卒業研究の手引き」又は「卒業論文の手引き」で詳細に説明・指導した上で、提出された論文等を複数教員による査読及び口頭試問又は公聴会により評価し、学科の合議により厳格に合

否を判定している。
　卒業の要件は、4 年以上本学に在学し、次の区分により授業科目を履修して、合計 124 単位以上を修得することとしている（履修規程第 5 条）。
【令和 7 年度入学者】
○ 国際言語文化学部 英語英文学科
　　共通教育科目 24 単位以上
　　専門教育科目 84 単位以上
　　学際教育科目 0～16 単位
○ 国際言語文化学部 国際日本文化学科
　　共通教育科目 26 単位以上
　　専門教育科目 72 単位以上
　　学際教育科目 0～26 単位
○ 現代人間学部 生活環境学科
　　共通教育科目 24 単位以上
　　専門教育科目 76 単位以上
　　学際教育科目 0～24 単位
○ 現代人間学部 心理学科
　　共通教育科目 24 単位以上
　　専門教育科目 84 単位以上
　　学際教育科目 0～16 単位
○ 現代人間学部 こども教育学科
　　共通教育科目 24 単位以上
　　専門教育科目 84 単位以上
　　学際教育科目 0～16 単位
○ 社会情報学環
　　共通教育科目 36 単位以上
　　専門教育科目 68 単位以上
　　学際教育科目 0～20 単位
○ 女性キャリアデザイン学環
　　共通教育科目 26 単位以上
　　専門教育科目 68 単位以上
　　学際教育科目 0～30 単位

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
国際言語文化学部	英語英文学科	124 単位	有	46 単位（年間）
	国際日本文化学科	124 単位	有	46 単位（年間）
現代人間学部	生活環境学科	124 単位	有	46 単位（年間）
	心理学科	124 単位	有	46 単位（年間）
	こども教育学科	124 単位	有	46 単位（年間）
社会情報学環		124 単位	有	46 単位（年間）
女性キャリアデザイン学環		124 単位	有	46 単位（年間）
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学 Web サイトの以下のページにて公表している。
https://www.notredame.ac.jp/about/campus/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
国際言語文化学部	英語英文学科	840,000 円	－	340,000 円	
	国際日本文化学科	840,000 円	－	340,000 円	
現代人間学部	心理学科	840,000 円	－	340,000 円	
	こども教育学科	840,000 円	－	340,000 円	
	生活環境学科	840,000 円	－	340,000 円	
社会情報学環		840,000 円	－	340,000 円	
女性キャリアデザイン学環		840,000 円	－	340,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）
学生一人ひとりに対して学修や進路、学生生活全般の助言を行う担任制度を設けている。また、教員が決まった時間に修学相談に応じることができるオフィスアワーを設けている。支援を必要とする学生については、授業保障・情報保障を中心に修学支援を行う「キャンパスサポート」というしくみを設け、教員や複数部署との連携チームで支援している。学業に専念でき、安心して学生生活が送れるよう、授業料減免制度や大学独自の奨学金制度を数多く設けている。

b.進路選択に係る支援に関する取組

（概要）
・共通教育におけるキャリア形成科目の開講、課外で実施するキャリアガイダンス、福祉業界等業界別、専門分野別の講座等の 1 年次からの段階的な実施
・就職活動を控えた 3 年生向けの全員面談、履歴書等提出書類の作成講座、面接練習会等の就職活動対策講座の実施
・キャリアアドバイザー及びキャリアセンター職員による個別キャリア相談の実施
・留学生、障害のある学生を対象としたガイダンスや個別相談の実施

c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）
看護師の資格を持つ職員を配置し、日々の学生の健康管理や健康相談を受け付けている。健康診断時には心身の相談ブースを設け、早期発見、ケアに努めている。内科医・精神科医などによる健康相談も行っている。学生相談室では臨床心理士の資格を持った専門相談員が大学生活を送っていく上での悩みや不安などの相談に応じ、対人関係が不安な学生に対してグループワークも定期的に行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学 Web サイトの以下のページにて公表している。
「教育情報の公表」
https://www.notredame.ac.jp/about/info/

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F126310107582
学校名（○○大学 等）	京都ノートルダム女子大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人ノートルダム女学院

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		163人（ 72）人	165人（ 68）人	172人（ 76）人
内訳	第Ⅰ区分	83人	75人	
	（うち多子世帯）	（ 13人）	（ 11人）	
	第Ⅱ区分	16人	25人	
	（うち多子世帯）	（ －人）	（ －人）	
	第Ⅲ区分	－人	13人	
	（うち多子世帯）	（ －人）	（ －人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	16人	－人	
	区分外（多子世帯）	39人	42人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－人（ 0）人
合計（年間）				173人（ 76）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	－人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	－人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	－人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	－人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	0人	人	人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	－人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	19人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	－人	人	人
計	27人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。